

TOPコレクション

TOP Collection: A Traveler from  
1200 Months in the Past

時

間

旅

行



2024年4月4日(木) - 7月7日(日)

東京都写真美術館

3階展示室 恵比寿ガーデンプレイス内

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

後援：J-WAVE 81.3FM

開館時間：10:00 - 18:00(木・金曜日は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日 ただし4月29日(月)、5月6日(月)は開館。5月7日(火)は休館。

観覧料：一般700円 / 学生560円 / 中高生・65歳以上350円

小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料。

本展はオンラインによる日時指定チケットが購入できます。事業は諸般の事情により変更することがございます。

最新情報、各種割引は当館ホームページでご確認ください。



TOP MUSEUM



千二百箇月の過去と  
かんずる方角から

この展覧会は「時間旅行」をテーマとする東京都写真美術館のコレクション展です。

人が様々な時代を自由に旅する「時間旅行」という発想は昔からよく知られたSF的なファンタジーですが、想像の世界や芸術の領域では、人は誰でも時間と空間の常識を飛び越えることが可能なのではないでしょうか。

詩人で童話作家の宮沢賢治が1924(大正13)年に刊行した『心象スケッチ 春と修羅』では、宇宙的なスケールの時間感覚の中で「わたくし」の心象、言葉で記録された風景、そして神羅万象とがひとつに重なりあったような「第四次延長」という世界が描かれます。その世界観は当時の最先端の科学や思想から影響を受けた宮沢賢治の想像力が生み出したものです。しかし百年前の詩人の言葉とそれを生み出した想像力には、現代という分断の時代を生きる私たちの心にも響く何かがかきとあるはずです。

本展は百年前である1924年を出発点として、37,000点を超える当館収蔵の写真・映像作品、資料を主にご紹介いたします。「時間旅行」をテーマとする本展で皆様は、それぞれの時代、それぞれの場所で紡ぎ出される物語と出会うことができるでしょう。本展は宮沢賢治による『春と修羅』序文の言葉をひとつの手掛かりとして、戦前、戦後そして現代を想像力によってつなぐ旅でもあります。

写真と映像による時空を超えた旅を、どうぞお楽しみください。



1



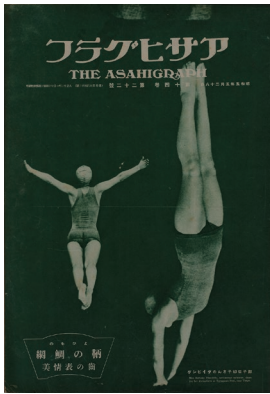
2



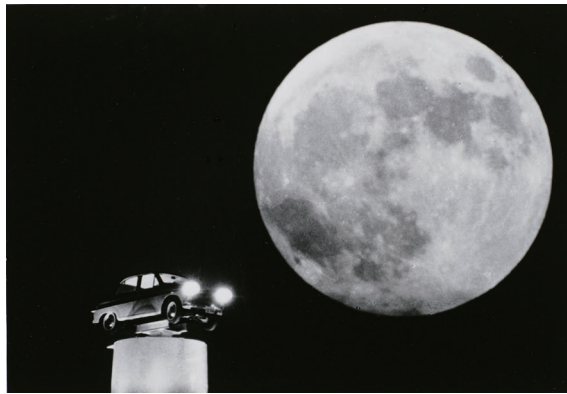
3



4



5



6

[展示構成・主な出品作家/作品資料]

第一室 1924年-大正13年

小川月舟、高山正隆、福森白洋、ラースロー・モホイ=ナジ、宮沢賢治、マン・レイ ほか

第二室 昭和モダン街

大久保好六、桑原甲子雄、杉浦非水、中山岩太、福原路草、堀野正雄 ほか

第三室 かつてここで「エビスビール」の記憶

「エビスビール」関連資料、宮本隆司 ほか

第四室 20世紀の旅-グラフ雑誌に見る時代相

大東元、W.ユージン・スミス、雑誌『アサヒグラフ』、雑誌『LIFE』 ほか

第五室 時空の旅-新生代沖積世

岩根愛、川田喜久治、北野謙、木村専一コレクション、佐藤時啓、

高木庭次郎、原美樹子、宮沢賢治 ほか

表面図版：(上)黒岩保美《D51 488 山手貨物線(恵比寿)》1953年 ゼラチン・シルバー・プリント

(中)作家不詳《宮沢賢治の肖像写真(立像)》1924年頃 画像協力：林風舎、(下)北野謙《光を集める》より 2017-18年 作家蔵 インクジェット・プリント

1. 作家不詳《サッポロビール・リボンシトロン ポスター》1927年頃

画像協力：サッポロビール株式会社

2. 高木庭次郎《(日本風景風俗100選)より 1910-23年 ガラス・スライドに手彩色

3. 杉浦非水《帝都復興と東京地下鉄道》1929年頃 リトグラフ、オフセット・ポスター

国立工芸館 蔵

4. 桑原甲子雄《(地下鉄入り口)》1930-39年 ゼラチン・シルバー・プリント

5. 雑誌『アサヒグラフ』1930年5月28日号

6. 大東元《夜空の構成 数寄屋橋にて》1958年 ゼラチン・シルバー・プリント

# 東京都写真美術館

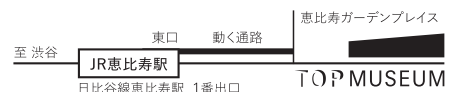
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
TEL 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

JR 恵比寿駅より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。

当館には専用の駐車場はございません。

お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。



わたたくしといふ現象は仮定された有機交流電燈のひとつの青い照明です(あらゆる透明な幽霊の複合体)風景やみんなといつしよにせはしくせはしく明滅しながらいかにもたしかにともりつづける因果交流電燈のひとつの青い照明です(ひかりはたもち その電燈は失はれ)：

宮沢賢治『心象スケッチ 春と修羅』序文より 1924(大正13)年

担当学芸員によるギャラリー・トーク

4月26日(金) 14:00 ~

5月24日(金) 14:00 ~

手話通訳付き

6月21日(金) 14:00 ~

手話通訳付き

当日有効の本展チケットまたは観覧会無料対象者の方は各種証明書等をご持参のうえ3階展示室入口にお集りください。

※会期中に関連事業を開催する予定です。最新情報は当館ホームページでご確認ください。